

# 歴史展「里の歩みそして夢」 制作者の思い



かがやけコトニ実行委員会  
委員長

うえだ かずお  
上田 一男さん (79歳)

今年には屯田兵が琴似に入植してから130年目の年ですが、過去にも50年目、100年目のときに記念行事が行われています。ただ、今回の記念行事の特徴は、地域が主体となって企画されたことです。過去の2回はいずれも行政が主導で行われましたので、地域主体で行われるのは、これが初めてではないでしょうか。

今回は屯田兵入村130年そして北海道遺産選定というテーマがありますが、実際に琴似を切り開いたのは、屯田兵だけではなく、それ以外の多くの一般の人々がいたことを忘れてはならないと思います。そのような意味で、可能な限り屯田兵以外の一般の人がこの地に尽くした貢献を残していきたいですね。カナの「コトニ」を使っているのは旧琴似町を意識しているためです。歴史展の資料も、できるだけ多く集めて、20年後の150年目の記念行事につなげていきたいと思ひます。



かがやけコトニ実行委員会  
副委員長  
琴似屯田子孫会会長

にいくに たつお  
新國 辰男さん (79歳)

琴似屯田子孫会は、入植100周年のとき、屯田兵の功績を後世に伝え残すため結成されました。時代とともに会員の高齢化も進み、会員数も減少していますが、次の世代に伝えるためには、若い方にもぜひ入会していただきたいと思っています。

屯田兵について、あまり知られていないことですが、琴似と山鼻の屯田兵は、他の道内の屯田兵とは少し違いがあるんです。それは、明治維新の戊辰戦争に関わっていた東北出身者が多いことです。彼らは、戊辰戦争に敗戦後、食べ物も十分にない中で、家族を養っていかねばならず、必死の思いで北海道へやってきました。物質的には恵まれませんでしたが、心豊かな人々が一団となって苦難を乗り越え、今日の繁栄が実現したのです。いろいろな催しが行われますが、中でもぜひ見てほしいのが「歴史展」です。



かがやけコトニ実行委員会  
歴史展担当

ながみね たかし  
永峰 貴さん (62歳)

自分の住んでいる地域が、昔どんな所だったのか知りたいという人が、意外と多いのではないのでしょうか。私は、その地域が今あるのは、先人が築いてくれた財産のおかげであり、それを次の世代に伝えていきたいと考えています。だから、この地域の歩みをそこに住んでいる人たちには分かってほしいと思っています。こういうことは、思い立ったときにすぐやらなければ、だんだん消えてなくなってしまうのです。

今回はそれに加えて130年という歴史の中で、普段忘れてしまっている昔の出来事を小話のようにしました。見る人が昔を懐かしみ、それを子どもたちに伝える、そんな歴史展ができればいいと思っています。そして、これを機会に住んでいる人が琴似をこよなく愛してくれればいいと考えています。



かがやけコトニ実行委員会  
歴史展担当

わたなべ しげる  
渡邊 滋さん (75歳)

この街の発展は、基礎を築いた屯田兵の方と現在の住民に至るまで、その後を継いで支えてきた人たちの努力によるものです。今回の歴史展では、その人たちの功績、ふるさとへの思い、地域に対する愛着などを表現したいと考えています。また、未来につなげるという意味で、小学生の作品の展示も考えています。ここで育った子どもたちが、将来ほかの場所で活躍することになっても、「自分のふるさとはここだ」という思いをどこかに残すような地域づくりをしたいという考えがあります。逆によそで育った人が、この街に来て、たとえ1年でも生活した時間というものは、その人にとって大事な思い出ではないでしょうか。

20年後の150周年のときには、今の小学生も社会を支える立派な大人になっています。その人たちに恥ずかしくないものを作りたいですね。